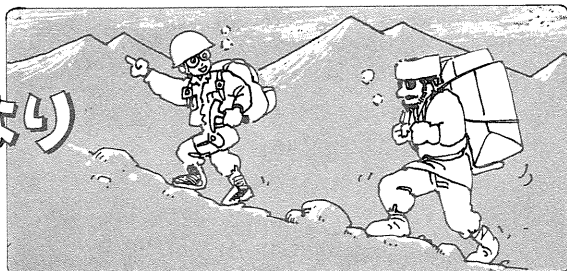


# 海外室だより



No. 22

## 海外研究員招へい制度 その2

### 重点基礎研究による招へい

我が国の科学技術が 現在のような国際的に高い水準に達した陰には 欧米諸国からの積極的な技術導入があったことはよく知られています。科学技術立国をめざす我が国としては 今後は自ら革新的な技術を開発し得る体質への脱皮を図らなければなりません。そのためには 次代の技術をはぐくみ 新技術創出の基盤となる基礎的研究を強化することが不可欠です。このような背景から 国立研究機関の研究活動強化のために 科学技術振興調整費の活用による重点基礎研究の推進を図る制度が 昭和60年度から予算化されました。

重点基礎研究に要する経費(60年度総額7億円)は 各機関の所属研究者数に応じて配分され 研究課題の選定は各機関の長に委ねられるという本制度の運用方針は 先に述べた制定の精神を良く反映しているといえるでしょう。

60年度の使用可能費目は とりあえず試験研究費と職員旅費に限られましたが 61年度からは外国旅費と外国技術者招へい旅費及び招へい外国人滞在費などが加わり 本制度による海外研究員の招へいが可能になりました。

招へい対象者は当該年度において実施する重点基礎研究課題に深い関係を持つ外国人研究者であれば その他特別の制限はありません。招へいに要する費用は 当該年度に設定された全体枠(61年度5千万円)の中から 各省庁でまとめた要望を 研究課題推進のための必要性等を勘案して 科学技術庁で調整の上 各機関に配分されます。招へい要求表の提出は4月下旬 招へい者の決定は7月中旬になります。振興調整費の性格上 招へい時期は早くても第3四半期中頃以降になることを考慮に入れておく必要があるでしょう。

当所における重点基礎研究による招へい研究員第1号は ニュージーランド科学産業研究省地熱研究センターのヘデンキスト博士で 研究課題「未利用地下資源に関する研究」に関し 鉱床部の松久課長を窓口 に 熱水と鉱化作用の関係についての共同研究を行いました。(遠藤)

1987年5月号

### 往く人 還る人

本欄No. 17(昨年12月号)で長期在外研究員を紹介しましたが 以来四半年 その後の動きについて触れておきましょう。

新年早々の1月1日 2名の研究員が いずれも相手国のフルギャンティーンによる在外研究のため 米国とカナダへ渡航しました。1人は鉱床部の月村勝宏技官で ワシントン州立大学での「高温高圧下における鉱物の結晶構造の研究」に もう1人は物探部の横倉隆伸技官で カルガリー大学での「地球力学的変形運動の研究」に それぞれ1年間の契約(ただし延長含み)で従事します。

以下は JICA による長期派遣専門家の動きです。

メキシコに派遣中の藤井紀之前海外室長は 1月下旬から約2週間 リーダー会議のため一時帰国しました。

No. 17では12月中旬出発予定と紹介した元所員の竹田英夫さんは 都合で予定が遅れていましたが 2月12日 地質調査システム専門家として ヴェネズエラの鉱山エネルギー省へ2年間の協力に出発されました。

同じく元所員高橋 清さんは ESCAP/RMRDC(バンドン)に勤務しておられましたが 本年1月の同センターの閉鎖に伴い 2月下旬に一時帰国され 3月下旬 ESCAP 本部の専門家として 改めてバンコクに赴任さ

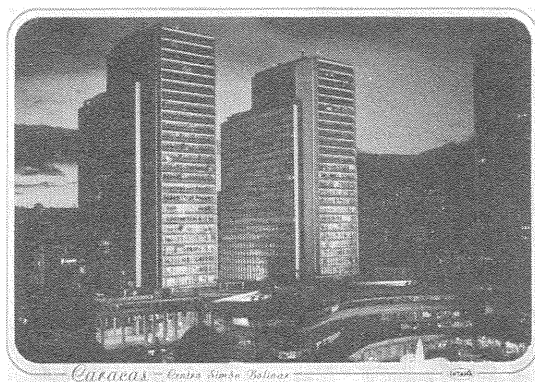


写真-1 カラカス市シモン・ボリバル中心街のタワービル。竹田専門家より。

れました。

3月にはトルコ MTA への専門家の交代がありました。3月13日 地質部の豊 遙秋技官が低品位大規模鉱床開発の専門家として 2年間の協力のために出発しました。同じく2年の任期を終えた太田英順技官は 入れ換って3月25日に帰国し 北海道支所鉱床課へ帰任しました。

3年間に亘って CCOP事務局に派遣されていた平山次郎技官も任期を全うし 4月9日に帰国しました。CCOPへの専門家派遣は トルコと共に長期継続の双壁ですが この方への後任者の派遣は8月頃になる予定です。

新たに赴任した3氏から着任の御挨拶を絵葉書で頂いております。以下の本文と共に御紹介しておきましょう。御活躍を祈ります。(遠藤)

2月12日正午 予定通り成田発NY経由で 23時間後に Caracas に到着しました。この一週間家探しと車の入手で 少々忙しい思いをしましたが 本日(21日)アパートに引越します。車も最近60-100%の値上げで入手困難でしたが 何とか入手できる見通しが立ちました。しかしここは事故が多い上に盗難も多いとかで 車の値段は日本に比べて高いとは思えませんが 保障は年間30万円近くになるとのことです(車の値段の約15%)。

勤務先の鉱山エネルギー省は この絵葉書の右側の建物の4階にありますが サンシャインビルよりも複雑で ひとりですどりつく自信がありません。(竹田英夫)

バンコクに着任して一週間経ちました。CCOP 会議に来た嶋崎氏とは 平山君と一緒に3月26日に会食しました。

市の中心にあるエラワン・ホテルにいますが 4月10日頃ホテルの近くの下記アパートに転居します。

(中略)

バンコクでは日本の新聞(前日の夕刊とその日の朝刊)が 当日の夜9時頃配達されます。(高橋 清)

一面銀世界のアンカラ空港に着いてから アッという間に一週目が過ぎてしまいました。着いてから数日雪が舞い 最高気温が氷点下という日がありました。昨日 今日とポカポカと暖かく 春もま近のようです。

帰国を控えた太田さんと慌しく引き継ぎをし アパートも一昨日ようやく決まって 兎に角寝る所だけは確保

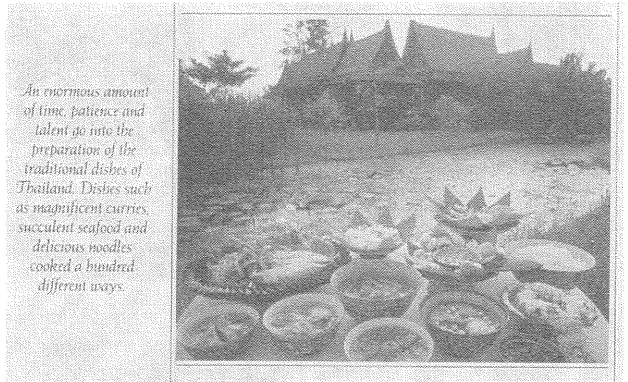


写真-2 タイの伝統料理。高橋専門家より。

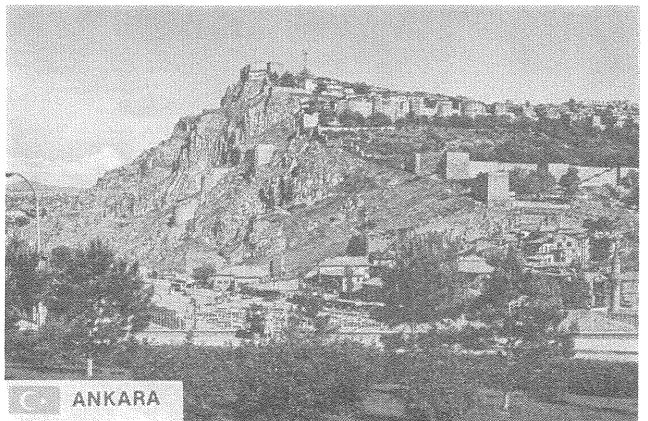


写真-3 アンカラ城。豊専門家より。

できました。これは太田さんやカウンターパートのおかげで 思ったよりもスムーズに運びました。荷物が届かず不自由して居りますが 家族全員元気で新しい生活に入りました。(豊 遙秋)

地質ニュース

昭和62年5月1日

編集  
発行人  
発行所

第393号 5月号  
定価 ¥630 千実費  
発行  
工業技術院地質調査所  
林 久 雄  
株式会社実業公報社  
東京都千代田区九段南4の2の12  
〒102  
Tel. (03)265-0951 (代表)  
振替口座 東京1-32466  
株式会社 実業公報社  
出版事業部

総発売元